

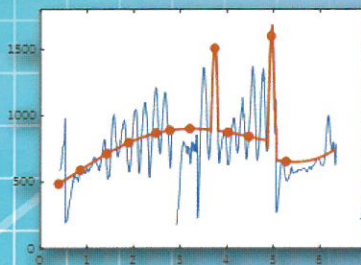
第19回 能楽セミナー

能をめぐる学際研究

能楽研究所は2013年以来、「能楽の国際・学際的研究拠点」として活動を続けてきました。学際研究は、能楽研究のために異分野の研究を利用するだけではありません。能楽の諸要素を新しい研究素材とすることで、その研究自体も進化していくことをめざすものです。今年度の能楽セミナーは、能楽をめぐる学際研究、特に理工系の技術や知見と組み合わせた新しい研究についてご紹介します。

コンピュータを使った謡の分析

伊藤 克亘（法政大学情報科学部教授）

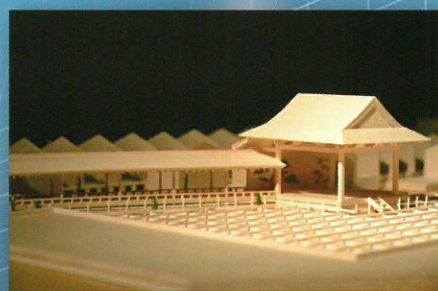


伝統芸能（文楽+能）の匠の技を応用する ロボティクスデザイン研究

中川 志信（大阪芸術大学デザイン学科教授）

歴史工学から解読する能 — 弘化勸進能絵巻の復元

高村 雅彦（法政大学デザイン工学部教授）



討議

コメンテーター：御法川 学（法政大学理工学部教授）

横山 太郎（跡見女子学園大学文学部准教授）

2016年10月8日(土)

会場 法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー 26階スカイホール

時間 13:30～17:00頃（開場 13:00）

事前申込不要・入場無料

【主催】 法政大学能楽研究所 能楽の国際・学際的研究拠点

今年度の能楽セミナーは、能楽をめぐる学際研究、特に理工系の技術や知見と組み合わせた新しい研究についてご紹介いたします。

理工系の技術による能楽研究といっても、「能の神髄、能の魅力を数字に置き換える」というようなことはありません。将来はロボットが素晴らしい感動的な能を舞うようになるなどとも考えていません。「芸」と呼ばれるものが観客によびおこす感動は、技術的な正確さとはまったく別物であることを、我々は経験から知っています。

しかし、能の謡の不思議な印象や、単純な木彫りの能面が複雑な表情を見せる理由を、能を見慣れた人間の「実感」だけでなく数値でも説明できたら、その情報を受け取れる範囲は格段に広がるのではないのでしょうか。また、江戸時代の舞台の図面や興行場所の絵から当時の劇場空間を再現して CG で見ることができたら、きっと新しい発見があるでしょう。

600年を超す伝統の中で育まれてきた知恵や美意識が、最先端の技術や研究と相互に影響し合い、大きな成果に繋がることを願って始まったプロジェクトの数々。その概要をご覧ください。

■ 登壇者紹介

伊藤 克亘 (いとう かつのぶ)

法政大学情報科学部教授。専門は情報工学・音声情報処理。FIT ベストペーパー賞(2013)受賞。主な著書に『音声認識システム』(オーム社・共著)『自然言語処理—基礎と応用—』(電子情報通信学会・共著)がある。現在は能楽研究所との共同研究で、謡のコンピュータ処理の研究を進めている。

中川 志信 (なかがわ しのぶ)

大阪芸術大学デザイン学科教授。専門はロボティクスデザイン、プロダクトデザイン。日本グッドデザイン賞入賞ホビーロボット「バリボ」(2008)、日本機械学会教育賞(2013)、優秀論文賞(IWRIS2015)等、受賞多数。現在は「伝統芸能文楽の技をヒューマンインタラクション技術へ適応させるデザイン研究」(科学研究補助費 基盤研究 A)を推進中。

高村 雅彦 (たかむら まさひこ)

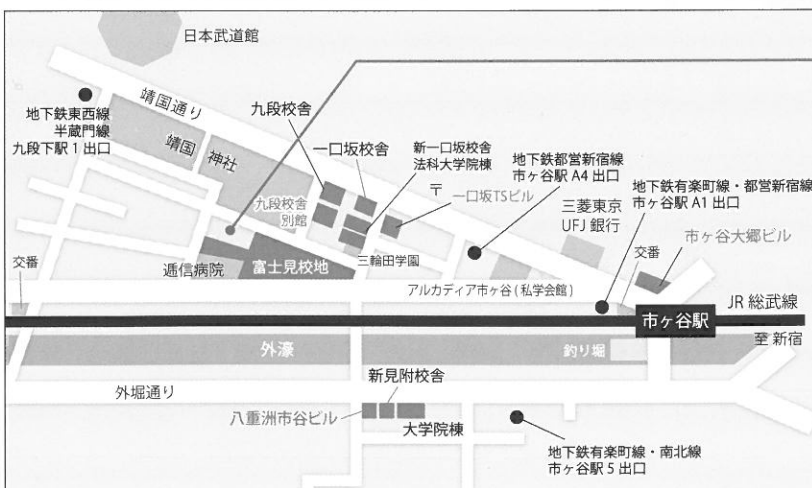
法政大学デザイン工学部教授。専門はアジア都市史・建築史。前田工学賞(1999)、建築史学会賞(2000)受賞。主な編著書に『アジアの都市住宅』(勉誠出版)、『タイの水辺都市——天使の都を中心に』(法政大学出版局)等がある。現在は能楽研究所との共同で、弘化勸進能の上演空間の復元研究も進めている。

御法川 学 (みのりかわ かく)

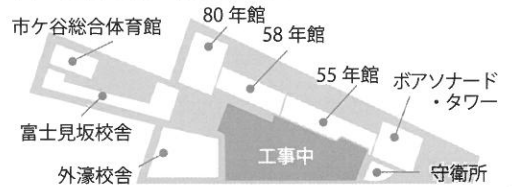
法政大学理工学部教授。専門は音響工学、流体工学。主な研究分野は機械の騒音低減、音質向上、流体騒音、ファン騒音航空機の設計試作、安全運航など。1999年より法政大学勤務、2010年より現職。

横山 太郎 (よこやま たろう)

跡見学園女子大学文学部准教授。専門は能楽を中心とする演劇学、身体文化論。東京大学大学院総合文化研究科にて博士号取得。2002年同大学院表象文化論研究室助手、2005年東京大学 UTCP 研究員、2006年跡見学園女子大学専任講師を経て、2009年より現職。



富士見校地内の各校舎配置



※校地内工事のため、市ヶ谷駅を利用し、三輪学園側の門からお入りください。

■ お問い合わせ先

法政大学能楽研究所

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL 03 (3264) 9815 FAX 03 (3264) 9607